



笑顔招福～SMILEFUL 潤徳小～

日野市立潤徳小学校  
学校だより 12月号  
校長 斉藤 郁央  
令和4年11月30日

# 潤徳だより

敬愛 自由 勤労

TEL: 029-222-1111

FAX: 029-222-1112

HP: <https://www.hino-tyo.ed.jp/e-juntoku/>

ダブル  
W 潤徳小学校が日本の教育を変える！かも

校長 斉藤 郁央

インターネットで「潤徳小学校」を検索したことがおありでしょうか。

検索エンジンによって、結果が変わるかもしれませんが、トップに「日野市立潤徳小学校」が出て、その下に「山都（やまと）町立潤徳小学校」がヒットしているのではないかと思います。

少なくとも、検索上は、日本に「潤徳小学校」が2校存在しているようです。

山都町は熊本県にあり、阿蘇山の南側、ほぼ九州の中央に位置する町です。そこに、もう1校の「潤徳小学校」があるのです。

しばらく前から、私は、山都町立潤徳小学校が存在することは気付いていましたが、本格的に交流することは想定していませんでした。

本校は、校内研究のテーマを「主体的に考えを表現し、学び合う児童の育成～Chromebookの効果的な活用法の研究～」として、学習者用端末の授業での活用に積極的に取り組んでいます。研究を進める中で、端末上で違う学年や学級と意見交換を行う実践が増えてくるなど、学年・学級の枠を飛び越えた活用ができるようになってきました。

そこで、私は、幅を広げ、学校の枠を飛び越えた端末の活用ができないか考えるようになり、パートナーとして、山都町立潤徳小学校との交流を検討するようになりました。

コロナ禍で、オンラインでの交流は日常的になりつつあります。また、日本全国の児童が自分用の端末を持つ時代になったことから、物理的にも両校がつながることができるのではないかと考えました。

しかし、恋愛と同じで、一方的に交流したいと思っても、先方がそう思わなければ、「片思い」になってしまいますし、そもそも、パートナー同士の校長の考えが一致しなければ成功しません。

まずは、[山都町立潤徳小学校のホームページ](#)を拝見してみました。

私と同様に、校長先生自らが、学校生活の様子について、よく記事を書いておられるようです。

また、「学校だより」の内容がおもしろい！校長先生の人柄や教育に対する思いが伝わってきます。

人柄、学校経営の考え方、子供への愛情、（失礼ながら、体型も…）などが、私とよく似ていると直感しました。

私は、ホームページを閲覧するうちに、山都・潤徳小との交流を絶対に行いたいとの気持ちが高まり、11月中旬、直接電話し、「告白」することにしました。

日野・潤徳小校長「唐突なお願いなのですが、ぜひ、同じ『潤徳小』同士で連携し、交流できないでしょうか…？」

山都・潤徳小校長「やりましょう！私も実は同じことを考えていたんです。わっはっは～！」

山都町立潤徳小学校の池部 聖吾智（いけば みわとも）校長先生も、本校のホームページを以前からご覧になっていて、関心をもってくださっていたのです。「告白」前から「両思い」だったわけですね…。

ここで、日野市と山都町、そして両校の比較をしてみましょう。

	日野市	山都町	備考
面積	27.55 ㎢	544.67 ㎢	山都町は日野市の約 20 倍
人口	187,391 人(R4.10.1)	13,503 人 (R2.10.1)	日野市は山都町の約 14 倍
市(町)制開始	S38.11.8	H17.2.11	山都町は3町村合併で誕生

（参考：日野市、山都町ホームページ）

	日野市立潤徳小学校	山都町立潤徳小学校	備考
児童数	712名(R4.11.30)	26名(R4.11.30)	日野潤徳は山都の約 27 倍
学級数	22 学級	3学級	山都潤徳は複式学級
歴史	M6開校(創立 149 年)	H17 開校(創立 18 年)	山都潤徳は3校統廃合で誕生
標高	67m	486m	Google Earth による数値

このように、日野市と山都町、そして、2つの潤徳小には、大きな違いがあります。  
この違いこそが、交流する意義です。

山都町には、1854年(嘉永7年)に建設された石造りアーチ水路橋で、国指定重要文化財である観光名所「[通潤橋](#)」があります。また、1758年(宝暦8年)が始まりだと言われ、迫力ある「大造り物」の引き廻しが有名な「[八朔祭り](#)」も大変魅力的です。

私は、[山都町のPRビデオ](#)などを閲覧する中で、山都町の豊かな自然や奥深い文化・歴史に触れることは、本校の児童にとって、見識を広げる大きなチャンスだと考えました。

また、農業が主産業の山都町の暮らしを教えてください、「水俣病」の学習や移動教室で長崎の平和公園にある平和祈念像を訪問した経験などを伝えていただいたりすることなどにより、社会科等の学習にいかせることと思います。

一方、山都町は、多くの災害にも見舞われています。

平成28年4月14日から16日にかけて、熊本地方で連続して震度7の地震が発生しました。山都町でもこの熊本地震で震度6弱1回、震度5強1回、震度5弱を2回観測し、多くの建物が全半壊するなどの被害がありました。亡くなられた方もいらっしゃるということです。山都・潤徳小にも校舎に多数のひび割れが発生し、臨時休校になるなどの影響がありました。

震災後わずか2か月ほどの、その年の6月には、1時間に126.5mmの大雨を記録するなど、震災の復興途上で「熊本豪雨」の大きな被害を受けました。山都・潤徳小にも土砂が流入し、プールが使用中止になり、再び、臨時休校になったということです。

しかし、山都町の住民の方々は、力を合わせ、こうした困難を乗り越えてこられました。

どうしても、東日本大震災のことに注目しがちな東京の学校にとって、熊本地震等の様子を実際に伺うことや、地域コミュニティの絆の強さを学ぶことは、防災意識を高めるためにも有効だと考えます。

山都・潤徳小にとっても、小規模校で人間関係が固定化しがちな環境の中で、大規模校である本校の児童と触れ合うことは大きな刺激になると思います。

また、授業をオンラインでつなぎ、両校の児童が意見交換を行うことができれば、多様な考えを吸収する機会になることでしょ。

このように、両校が交流を深めることは「win-win」の関係になるものと私と池部校長先生が判断し、連携の実現につながったわけです。

「潤徳小」が日本で2校ある「偶然」、コロナ禍でオンラインが日常化する「運命」、さらに校長同士が「両思い」であるという「奇跡」が重なったこの取組、我が国の小学校教育では、ほとんどない実践だと考えられます。

すでに、両校の校長が互いの児童に対して、オンラインによる「リアルタイムメッセージ」を送ったり、児童同士の「オンラインじゃんけん」を行ったり、連合音楽会の「壮行会」での合唱・合奏の様子をライブ配信したりするなどの本格交流を開始しています。

日本の教育の最先端を突っ走るといふ意気込みをもち、両校の校長がタッグを組んで、「東西潤徳小学校コラボレーション」の企画を実りあるものにしていきたいと思います。

今後も、ご注目ください！



【通潤橋】



【八朔祭り】



【交流開始！】



【両校長で力を合わせて頑張ります！】



### 今月の目標

- |      |                  |
|------|------------------|
| 生活目標 | 担当の掃除をしっかりとやろう   |
| 人権目標 | 相手の立場になって考えてみよう  |
| 健康目標 | 寒さに負けない体をつくろう    |
| 給食目標 | マナーを守って楽しく食事をしよう |

